

平成29年度 第1回 美深町総合教育会議議事録

美深町総合教育会議を次のとおり開催したので、その記録を美深町総合教育会議設置及び運営に関する要綱第7条に基づき作成いたします。

1 開催日時 平成29年9月27日（水）午後5時00分～午後5時50分

2 開催場所 美深町役場 大会議室

3 出席者

役 職	氏 名
町長	山口 信 夫
教育長	石 田 政 充
教育委員（教育長職務代理者）	宮 原 宏 明
教育委員	庄 司 村 尾
教育委員	清 水 満 寿 美
教育委員	坂 井 弘 明
美深町副町長	今 泉 和 司
総務課長	渡 邊 英 行
美深町幼児センター長	藤 原 裕 子
総務課総務グループ主幹	小 林 一 仙
教育グループ主幹	大 堀 裕 康
教育グループ副主幹（学校）	和 田 政 則

4 議 事

議案第1号 仁宇布小中学校の在り方について

5 そ の 他

美深高校生徒確保対策について

6 会議記録

(1) 開 会（午後5時00分）

総務課長 お集まりをいただきまして、ありがとうございます。
ただ今から平成29年度第1回美深町総合教育会議を進めさせていただきます。
開会にあたりまして、町長よりご挨拶を申し上げます。

(2) あいさつ

- 町長** お集まりいただきまして、ありがとうございます。
教育委員の皆さんには、町政全般に渡りましてご協力をいただき、ありがとうございます。平成27年度に教育委員会制度が変わって、総合教育会議が位置づけられ、これまでも町部局と教育委員会が密接な連携をとらせていただいております。順調に進めさせていただいております。
- 今日の議題の一つは、仁宇布小中学校の在り方について懇談会を設けさせていただいて、4回の会議を開いており、一定の話しをされたことと思います。教育委員会としても、一定の考え方がまとまっていると思いますので、今日は、そのあたりのお話しをお伺いしながら、私なりに、今日判断するというのではなくて、今後に向けて、なるべく早い段階で、学校設置者という立場での考え方を整理していかなければならないと思っております。今日は、今までの話しも含めてお話しを聞かせていただいて、私なりに町部局としての整理をしたと考えているところですので、よろしくごお願い申し上げます。

(3) 議 事

- 総務課長** 議事以降については、町長の進行で会議を進めさせていただきたいと思っております。よろしくごお願いいたします。
- 町長** それでは、議案第1号「仁宇布小中学校の在り方について」説明をお願いします。
- 教育長** (「仁宇布小中学校の在り方について」別紙により説明)
- 町長** ありがとうございます。懇談会を受けて教育委員会の考えをまとめられたと思います。せっかくの機会ですので、教育委員さんそれぞれの思いや考えがあればお聞かせ願いたいと思います。
- 庄司委員** 仁宇布の学校へ一般の方々が行く機会はないと思いますが、我々が入学式や卒業式などに行くと、独特の雰囲気があり格別なものがあります。今回の懇談会の委員さん達もそうだと思いますが、ビデオを見て感動したということで、卒業式は本当に感動します。町民の方にも分かってもらえれば、仁宇布の学校の存在というのは、考え方が変わってくると思います。学校が古いからなくすと言う考えの方もいるかもしれませんが、できる限り存続させてやりたいと思っています。
- 坂井委員** 自分も教育委員になってまだ日が浅いのですが、なる前と後では印象が変わって、学校としてはすばらしい学校だと感じています。こういう役職に就かないと、なかなか学校に接する機会はないと思います。そういう部分では、町内の人との交流とかを今まで以上に考えていった方が良いのではないかとこの部分と、小学生に関しては修学旅行を一緒に行っているようですが、月に何回か、週に何回か交流を増やしていくのも良いかと思っております。
- 清水委員** 学校の存続ということも大事なのですが、仁宇布の地域を残してもらいたいということもあります。仁宇布を残したいという手段の一つとして、学校の存在は大きいと思います。
- 宮原委員** 私の考えを5つにまとめてお話しさせていただきます。
まず一つ目は、仁宇布の学校は開校100周年を経過したという、一つの実績と歴史があります。根付いているということもあります。
二つ目は、不登校児を山村留学で受け入れるということは、インターネットなどで、美深町の名前と同時に全国に発信しているということです。
三つ目は、非常に教育効果を上げて、卒業式のビデオを見ても感動できるし、懇談会の委員さんからの意見を見ても、強力に反対する委員さんはいないとい

うことを考えていけば、皆さん方も心を打っているのだと思います。

四つ目としては、過去にあった例として、高等養護学校を誘致した当時は、相当の議論があったと思います。当時の首長たちのリーダー性で乗り切って、現在のたくさんの先生、生徒がいて一つの成功体験だと思います。

五つ目としては、教育としてはいろいろな意味で地域創生ということ考えたときに、教育の場面から一步踏み出せるのではないかと思います。

教育として、我々に何十年か後に、未来への教育投資としての夢を見させてもらえるようなものではないかと思います。一つの地域産業としてのチョウザメ、教育資源としての仁宇布という、この二つで持っていくことは、第6次総合計画へ向けての一つのステップにもなるのではないのでしょうか。できれば先ほど、教育長が提案された点について町長の温かいご配慮をいただきたいと思います。

町長 みなさんから、それぞれの思い、考え方を出示していただきました。学校設置者として考えていかなければならない中で、仁宇布の学校を考えたときに耐震性や校舎の限界がきている点があります。そして、これが良いのか悪いのかの判断が必要なのですけれども、仁宇布地区のPTAや地域から要望書の提出をいただいています。この課題は、ここ数年で出てきたことではなくて、10年というか20年近くの心配事だったのだろうと思っています。

私としては、一定の結論を出す時期に来ていると思っています。何時結論を出すにしても、どういうスタイルで出すとかありますけれども、懇談会でもいろいろな意見があったと思います。町民全員に聞くということにはなかなかならない訳で、議会等に相談しなければなりません。総合教育会議の議題にもなりましたので、なるべく早い機会に、できれば、ここひと月ふた月の間に議会と具体性をもって相談したいと思っています。5次の総合計画には細かいことは別として大雑把に仁宇布の学校のことを心配しながら載せています。役場庁舎であるとか、特別養護老人ホームであるとか大きな課題も抱えているので、財政的なことも相談しながら、財源の見通しも含めて、私としては結論を早めに出していきたいと思っています。

心配しているのは、給食の時の話しも20年30年かかっています。結果的には喜んでいただいていると思っています。ただ、仁宇布の中で給食を良しとしない方がいるとか、恩根内を統廃合した経過もありますが、地域からいろいろな声が上がってくると、難しくなる可能性もあります。いろいろなことを考えなければならぬと思っています。副町長と教育長と戦略的に考えていかなければならぬと思っています。ここまできましたので、決断のときが来ていると思っています。

(4) その他

町教育長 次は、その他「美深高校生徒確保対策について」説明をお願いします。
（「美深高校生徒確保対策について」別紙により説明）

町教育長 教育長からキャンパス校について、今後の見通しの報告がありました。我が町の高校に対する取り組み、さらには一連の運動の成果が見えつつあるということだと思います。
他にありますか
（「なし」の声あり）

町長 ないようですので、本日の総合教育会議は、これで終了したいと思います。よろしいですか。
（異議なしの声あり）

◎ 閉 会（午後 5 時 5 0 分）

町 長 以上で美深町総合教育会議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。
